

令和6年度 第4回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和7年2月10日 開 催

豊橋市教育委員会

第4回 総合教育会議	
日時	令和7年2月10日(月) 午後3時00分～4時10分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	長坂 尚登 市長 内浦 有美 教育委員 中島 美奈子 教育委員 山西 正泰 教育長 渡辺 嘉郎 教育委員 西島 豊 教育委員
事務局	朽名 栄治 財務部長 石川 和志 教育部長 鈴木 大介 教育政策課長 加藤 友治 教育会館長 角野 洋子 企画部長 伴 健太郎 財政課長 鈴木 秀典 学校教育課長 ほか 5名
その他	傍聴人 16名

議事日程

協議事項

- 1 学校規模の適正化～望ましい教育環境の維持に向けて～

連絡事項

次回開催日程 令和7年7月2日(水) 15:00～

(教育部長)

ただいまから、令和6年度第4回豊橋市総合教育会議を開催いたします。お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日の協議事項は、「学校規模の適正化～望ましい教育環境の維持に向けて～」でございます。それでは、資料1を事務局から説明してください。

協議事項

1 学校規模の適正化～望ましい教育環境の維持に向けて～

■教育政策課主査 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、説明に対する皆さまのご意見などをお聞かせいただければと思います。

(渡辺委員)

豊橋の人口が今後減っていく見込みのため、学校再編はやむを得ないものかと思います。今後の大きな時代の変化に伴い、学校教育も変わってくる可能性があり、学校の役割も変わってくると思います。「統廃合」ではなく「新たな学校を作っていく」という考え方にすると良いと思います。校舎の老朽化も進んでいるため、新たな学校について勉強し、迅速に対応する必要があると考えます。

(内浦委員)

資料にある「小学校のあり方に関するアンケート」について、多くの回答が集まったため、保護者の意向を分析できるものになっています。また、アンケートには「学校にどのような特色を求めるか」という項目があり、新たな学校に関する小・中・大規模校それぞれの保護者の希望や要望が回答に含まれているため、丁寧に読み取る必要があると考えます。

(西島委員)

学校規模の適正化を実現していくべき背景は理解しましたが、学校再編をすぐに行わなければならないと判断されるまで、残された時間はどのくらいありますか。

(教育政策課長)

学校再編までの期限を明確には示せませんが、複式学級となる見込みがある学校に対しては再編の検討をすべきだと考えています。現状、本市では令和12年度までに複式学級となる見込みの学校はありません。しかし、令和13年度以降はどうなるのかわからないという状況です。また、学校施設の老朽化の指標として建築経過年数80年を基準としていますが、80年経過したらすぐに取り壊しを行わなければいけないというわけではありません。

(西島委員)

この状況を踏まえて、老朽化が緊迫しているエリアを基軸に議論を進めていくといいと思います。校舎の老朽化などによる学校の規模適正化の「必要性」と「目ざしたい未来の実現」という2つの側面から、実現可能な未来を子どもたちに提供しなければいけません。まずは、豊橋の目指す未来像を具体的に示すのはいかかでしょうか。また、教員の負担軽減により子どもたちにも良い影響があることを念頭に議論を進めていく必要があります。

(中島委員)

学校規模の適正化を進めるにあたり、子どもを主語にして取り組む必要があると考えます。理想的なクラス数やクラスの人数について、子どもたちへのアンケートにより意見を吸い上げ、子どもたちの気持ちを重視すると良いと思います。

(渡辺委員)

現状の学校はバリアフリーではないため、今後はインクルーシブ教育に力を入れながら、現時点での最先端な学校を作り、さらに時代に合わせて変えていくと良いと思います。

(山西教育長)

子どものための学校とはどういうものを重点に検討が必要だと考えます。現状の学校には閉鎖的な部分もあるため、子どもたちのために、地域の方々が自由に入り込める学校で、かつ、インクルーシブ教育を取り入れた学校を作っていくと良いと考えます。

子どもの意見の聴き取りについてですが、子どもは自分の生活圏がすべてであり、正確な回答ができない可能性があるため、聴取した意見がデータとして重みが出るか疑問です。子どもの意見は必要ですが、大人は子どもを守る立場にあり、どれだけ子どもの意見を取り入れる必要があるのかは考えなければなりません。

(中島委員)

子どもたちにアンケートを取る前に、事前にオンライン等で小規模校と大規模校との交流の場を設け、子どもたちの価値観を広げるのはどうでしょうか。

(教育部長)

子どもの意見の聴き取りに関しては、子どもの範囲や方法についてもこれから議論を進めていく必要があると考えています。

(渡辺委員)

学校再編までのタイムリミットが短い地域をモデル地域にして、検討会を進めていくと良いと思います。豊橋では人口減少の進行が早いので、子どもたちを増やしていく対策も必要です。

(内浦委員)

小学校児童数は5年間で約3,000人減少すると予測されており、人口減少の深刻さを感じます。中学校においても、いずれ小学校と同様に減少が加速します。渡辺委員のおっしゃる通り、子どもの人口減少対策として住みやすい街づくりも大切だと思います。

(西島委員)

資料の「適正化にあたっての基本的視点」の観点から議論を進めていくという認識でよろしいでしょうか。

(教育部長)

その通りです。本日は第1回目になりますので、具体的な内容につきましては、今後話し合いを重ねていきたいと思えます。

(渡辺委員)

学校は避難所でもあるので、災害が来る前に手を打つ必要があります。参考になる先進的な取り組みをしている地域や学校はありますか。

(教育部長)

本市と同等規模の自治体で参考にできる事例は見つかっておりません。

(西島委員)

学校設備に関しては、予算に限りがある中では導入したい設備でも優先順位をつけざるを得ないのが現実です。そこで、成功事例があると勇気をもって進められるため、他地域の事例を知れると良いと思えます。

(渡辺委員)

防犯の観点も取り入れる必要があります。

(教育長)

複式学級についてはしっかりと理解することが必要です。複式学級での指導は難しく、きちんとした指導のできる教員が不足すると考えられます。事前にいつ複式学級になるかを算出し、複式学級になってしまう前に対応が必要です。個人的には、子どものためを思うと複式学級は反対ですが、複式学級にするのであれば、準備の時間をしっかりと確保しなければなりません。

(教育部長)

たくさんのご意見ありがとうございました。時間も来ておりますので、市長からもお願いいたします。

(市長)

まず、新たな学校について考える必要があるのはその通りだと思います。昨今の不登校児童生徒の急増を見ても、児童生徒個人の問題ではなく、今までの学校教育と今の社会・環境の間にかみ合っていないものがあると考えています。学習指導要領に則り、子どもにとって理想的な学校教育とは何かを考えなければなりません。義務教育学校のように小学校と中学校の統合を視野に入れるのも良いと思えます。

子どもを主語にすることに関してもおっしゃる通りです。子どものために学校があるのですから、学校維持のために子どもを増やすのではなく、軸は「子どものために」であるということをお忘れはいけません。

資料では、2025年から5年後には3,000人、現在の約1学年分の児童生徒数が減ることがわかります。地域ごとに個別に対応するのではなく、まずは、全市民と危機感を共有することが非常に大事だと考えています。学校再編は1校の問題ではなく2校以上に影響が出るため、小規模校の関係者は危機感を持っていても隣接する学校はそうではないということもあります。大規模校も近隣に小規模校があれば再編の対象になり得ます。着手から実現まで5から10年はかかると考えており、実現する間に状況が変わることも想定されるため、局所的ではなく全域で共有したうえでどうするべきなのか話し合う必要があります。この共有にも半年から1年はかかると考えています。

(山西教育長)

最後に1点だけ、子どものために教育があり、学校があり、教師がいるということを皆様に共有したいと思っています。

(教育部長)

ほかに何かありますか。それでは、本日の会議の総括を市長にお願いしたいと思います。

(長坂市長)

本日は、学校規模の適正化について協議させていただきました。本市の児童生徒数は、今後も減少が避けられない状況であり、学校規模の適正化は先送りすることのできない課題となっています。

本日は、忌憚のない意見交換が出来て大変有意義な会議であったと思います。この課題については、本日の会議をスタート地点として、今後も継続して協議を行いたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

連絡事項

- ・ 次回開催日程 令和7年7月2日（水）15:00～

(教育部長)

以上で、令和6年度第4回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。